

クンシラン植替え法

はじめに

クンシランの植替え法に関しましては、2008 年度の会報に「初心者のためのクンシラン植替え講座！」として載せていますが、その後も質問等をいただきますので、一部加筆修正して再掲載いたします

植替え時期

クンシランの植替えは、一般的に花が終わった4月末～5月、夏季の休眠が終わった9月～10月に行います。

クンシランはヒガンバナ科の植物ですが、他のヒガンバナ科の植物の様な球根を持ちません。

代わりに、バルブと根に養分を蓄えています。

植替え時に根を切るとせっかく蓄えられた養分を失うことになり、その後の成長に影響が出ます。

特に春の植替えで、根(バルブ)を傷めると6月ごろの花芽分化時期までに株の樹勢が回復せず、花芽の分化に影響を及ぼし2年後の開花時に花数が少なくなる原因になります。

このため、春の植替え時には出来るだけ根を痛めないように細心の注意が必要です。

筆者は、開花株の植替えや子株を分ける場合は秋に、苗は春に行っています。

植替え時に根を折らないようにするには、植替えの7～10日前から水やりを休止し乾かしぎみに管理していると、植替え時に根が折れ難くなります。

準備するもの

植木鉢(深鉢)3～10号

軽石 中粒～小粒(みじん抜き)

硬質赤玉土 大(中)粒～中(小)粒(みじん抜き)

腐葉土(みじん抜き)

竹炭 中粒～小粒

ごろ土 軽石大粒

鉢底網

ナノアグア 2520(殺菌・消毒用):50ppm(20倍)に希釈して使用

はさみ(カッターナイフ)

マグンプ K 大粒

噴霧器

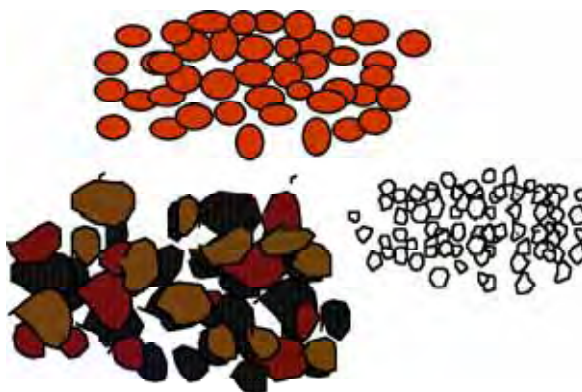
ライター

菜箸

ラベル

マジック

注)用土は混合する前にふるってみじんを抜くこと!



培養土の混合

軽石 4、硬質赤玉土 3、腐葉土 2.5、竹炭 0.5 の割合で混合し、一鉢あたり軽く一握りのマグンプ K を混合しておく

培養土は何が正解と言うものではありませんが、ここでは筆者が使用しているものを例としてあげます。

クンシランの場合通気性と、ある程度の水持ちが良いことが条件となります。通気性を確保するための軽石等と、水持ちを確保するための赤玉土等粒のしっかりした用土を混合して使用します。

軽石、赤玉土、腐葉土の混合比は、水やりの頻度によります。こまめに水やりが可能な場合は、軽石の比率を高め、赤玉土、腐葉土の比率を下げます。逆に週 2 回程度の水やりになる場合は、軽石の比率を下げ、赤玉土、腐葉土の比率を上げます。竹炭はなければ特に混合しなくても問題はありません(炭は有用菌の繁殖を助け、根腐れ等を引き起こす病原菌の繁殖を抑える効果が期待されます)。

ご自身の管理に合わせて、用土は調整して下さい。

用土の粒の大きさは、苗では中粒～小粒、開花株では大粒～中粒を使用します。

有機質の肥料を用土に混合すると根腐れの原因になります。このため用土に混合する元肥は、マグアンプK等の緩効性化学肥料を使用して下さい。

発酵済の油かすでも、用土に混合すると分解時に熱を発生し、根腐れの原因になりますので、絶対に用土に混合しないで下さい。

植替え法

1) 鉢の縁をたたいて、根を傷めないように鉢から株を抜く(植替えの 7~10 日前から水やりを休止すると、抜きやすくなる)

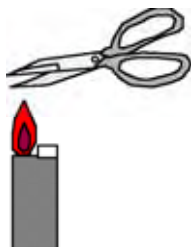


2) 株の土を振り落とす(古くなって黒くなった根や枯れた根を取り除く)

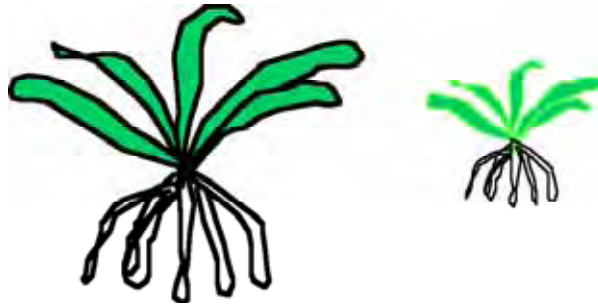


3) 子株が出ている場合、子株の根が 3 本以上(葉が 6 枚以上)あれば、株分けすることも可能

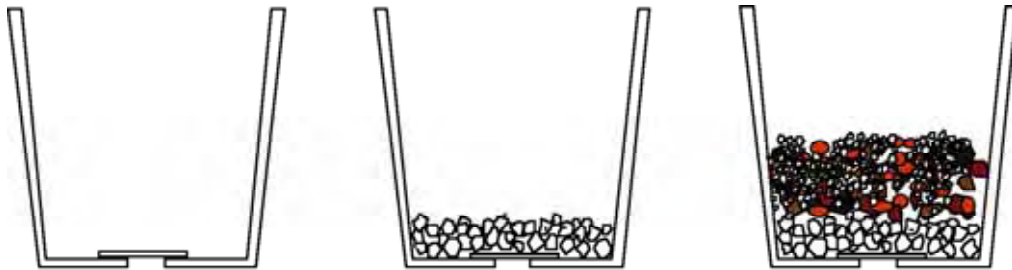
4) 株分けする場合は、はさみ(カッターナイフ)の刃を焼いて消毒し、根を痛めないように切り分ける(出来るだけ根を切らないように!)



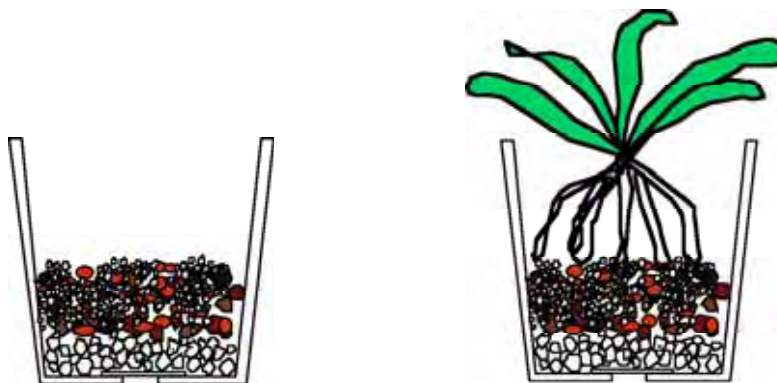
5) 切り分けたら切り口にナノアグア 2520 (50ppm) を噴霧しておく



6) 新しい鉢(概ね一回り大きな鉢)に鉢底網を敷き、ごろ土を2~3センチ入れ、その上に混合した培養土を2~3センチ入れる



7) 6) の鉢に、植え付ける株を入れ、襟組の高さが鉢の縁ぐらいになるよう(鉢の中心になるよう)に位置をきめる



8) 培養土を補充し、菜箸を根の間に差し込み左右に動かしながら培養土を根の間に詰める(根を痛めないように)



9) 株が安定したら、鉢の縁から4~5センチ下になるように培養土を補充する



10) 葉裏に水やり時に培養土が飛び散るのを防ぐために、化粧土として軽石(培養土でも可)を1~2センチの厚さになるように敷く



11) 上からたっぷり水やり(鉢穴から濁った水が出なくなるまで)する



12) ナノアグア 2520 (50ppm) を葉の表面、裏側、襟組、培養土に噴霧する

13) ラベルを付けて植替え完了

植替え後の管理

- 1) 植替え後 1 週間は水やりを控え、日陰で管理する
- 2) その後は通常の管理へ

その他

- 1) 寒さには弱いので特に凍結・霜焼けに注意！
- 2) 成長期(新しい葉が伸びて出している時期)は乾燥を嫌うので、鉢土の表面が乾いたらたっぷり水やりする
- 3) 生育期は 2 週間に 1 回水やり代わりにハイポネックス粉末を 2,000 倍に希釈して与える(噴霧器による葉面散布がより効果的!)と良い(濃いと肥料焼けを起します)
- 4) 水やり時に他の植物活性剤を与えても良い(その場合は月に 1 回水やり代わりに行う)
- 5) 秋になって、温かい室内に取り込む前に、最低気温 5~10 になる場所で 60 日以上管理する(この寒さにあわせないと春に花茎が伸びずに開花する)
- 6) ヒガンバナ科の植物なのでウイルス病に弱いので、アブラムシの飛

来に注意が必要(春になったら、オルトラン粒剤を散布する:以降 10月まで定期的に散布する)

- 7) 日光を好みますが、直射日光では葉焼けをおこします(寒冷紗を張り、風通しの良い環境で管理することが丈夫な株を作ることに繋がります)
- 8) 生育期に充分日光に当てないと翌春花が咲きません
- 9) マグンプ K 等の固形緩効性化学肥料は春と秋に、発酵済み油かすを与える場合は毎月(発酵済み油かすは形が残っていても、肥料分は一ヶ月でなくなる)与える
- 10) カイガラムシが発生したら、アクテリック乳剤等の薬品を規程濃度に希釈して散布する
- 11) 花芽の分化は6月~7月ごろに起こります。この5月~7月にリン酸分の多い肥料を与えると花付きに効果があります
- 12) 成株の場合、子株を吹かせたくない場合は、浅植え(根の表面が鉢土からのぞく程度)にすると、子株が吹き難くなります
- 13) 逆に子株を吹かせたい場合は、できるだけ深植え(襟組ぎりぎりまで埋め込む)にすると吹きやすくなります
- 14) 蕾の成長期に水切れするときれいに開花しません
- 15) 病気の予防にはナノアグア 2520(20ppm)50倍希釈液を毎月噴霧器で散布すると効果があります
- 16) クンシランは順調に生育すると種まきから5年目に開花します
- 17) 開花株はきちんと管理すると、毎年新葉を7枚以上伸ばします(6枚以下の場合は管理が悪いことになります)
- 18) また、管理がよければ、前の葉と同じ幅かより太い葉を出します(前の葉より葉幅が狭くなったら肥料切れのサインです)
- 19) クンシランは肥料喰いです(薄めの肥料をたっぷりポイントです!濃い肥料は根焼けの原因になります)
- 20) その他栽培法の詳細はクンシラン協会ホームページかクンシラン協会 2007 会報を参照願います